

2026年5月28日

各 位

会 社 名 株式会社テノ・ホールディングス
代 表 者 名 代表取締役社長 池内 比呂子
(コード番号：7037 東証スタンダード市場・福証)
問 合 せ 先 取締役管理本部長 岡 田 基 司
(TEL. 092-263-3550)

特別利益（補助金収入）及び特別損失（固定資産圧縮損）の計上に関するお知らせ

当社グループは、2026年12月期第2四半期において、下記のとおり特別利益（補助金収入）及び特別損失（固定資産圧縮損）を計上いたしますので、お知らせいたします。

記

1. 特別利益及び特別損失の内容

(1) 新規開設施設について

当社の連結子会社、株式会社テノ・コーポレーションは2026年4月に認可保育所を開設いたしました。

認可保育所 ほっぺるランド大井町（東京都品川区）

(2) 特別利益について

当社の連結子会社、株式会社テノ・コーポレーションにおいて、ほっぺるランド大井町の運営を開始いたしました。当該施設に係る補助金の交付に伴い、「補助金収入」として見込額292百万円を特別利益に計上する予定であります。

(3) 特別損失について

前項の補助金の交付に伴い、圧縮記帳する会計処理を適用し、固定資産圧縮損として見込額292百万円を特別損失に計上する予定であります。

注) 新たに保育所等の施設を開設した場合、その開設費用の一部に対し、自治体から補助金の交付を受ける場合があります。当社では、自治体から受け取る補助金の会計処理について、固定資産圧縮損を計上し、対象となる固定資産の帳簿価額を直接減額し、毎期の減価償却も減額後の額をもとに計上する「直接減額方式」を会計方針として採用しております。その他、認められる会計方針としては、補助金を営業外収益に一括計上し、固定資産は補助金控除前の帳簿額で計上する「剰余金処分方式」があります。「直接減額方式」を採用する場合と比較すると「剰余金処分方式」は、新たに保育所を開園した事業年度において、補助金が一時的な収益として計上される一方、売上原価に計上される減価償却費は「直接減額方式」に比べ大きくなります。

2. 業績に与える影響について

本件が2026年12月期の業績に与える影響につきましては、2026年2月13日に発表いたしました業績予想に織り込み済みであります。

以 上